荷造りをして　さあふたたび
人情あふれるおとなりの国
台湾へ

台北 101 ビル 故宮博物院だけでなく
いま　台湾の山と海があなたを待っている

遥かなる歴史を胸に刻み
人懐こくて心温かく純朴な人々
アートと美あふれる先住民の集落の暮らしに
ふれてみよう

さあゆこう！

utan'e mimiyo

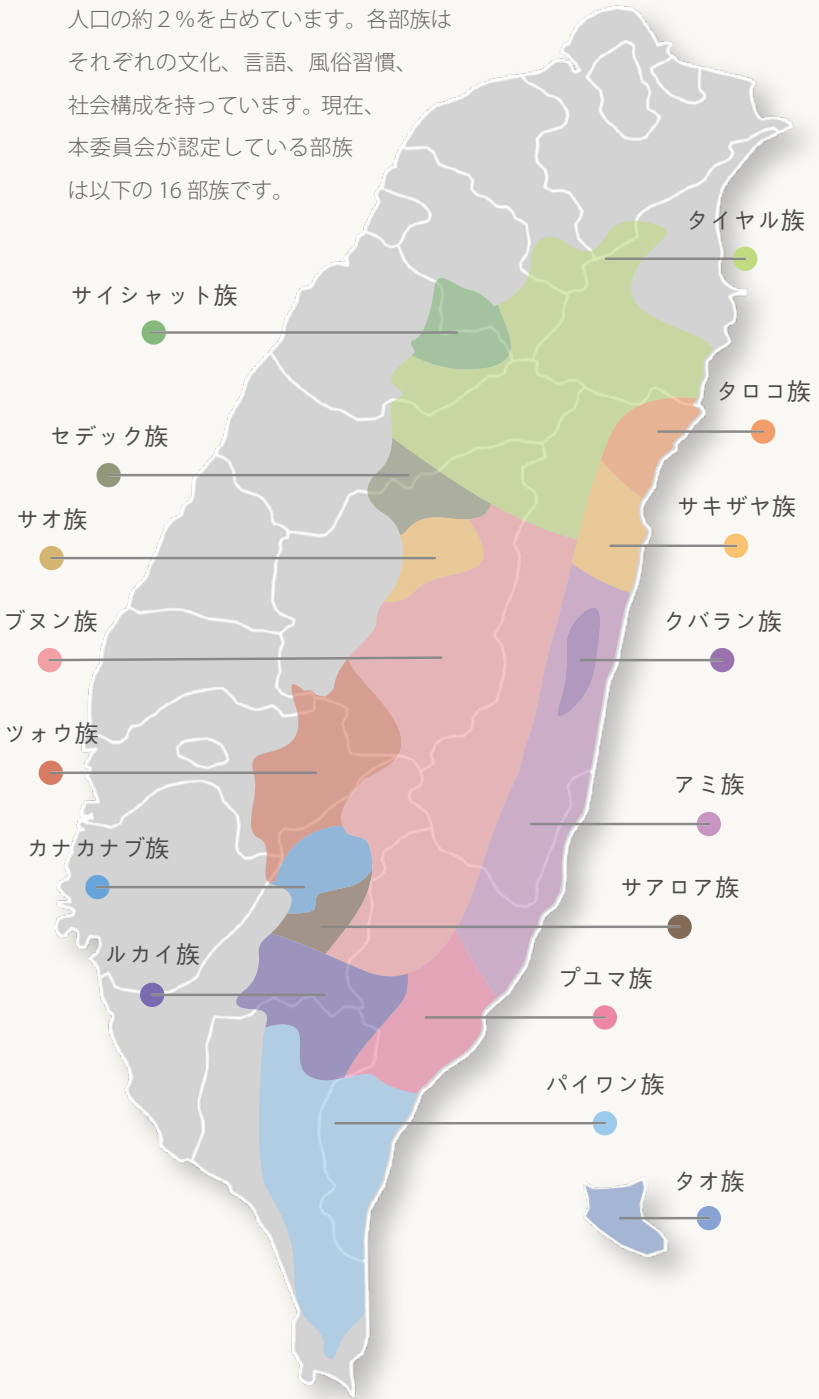
utan'e mimiyo

ツォウ族のことばで
utan'e は「いらっしゃい」
mimiyo は「集落から集落へ」
という意味です。

台湾の先住民の人々は、誇りを持って自分たちのことを「原住民」、集落のことを「部落」と呼びます。本誌では一般的な日本語の表記を考慮し、それぞれ「先住民」、「集落」としました。ご了承ください。

台湾先住民ー分布図 / 各部族概要

台湾先住民は台湾に最も早くから住んでいた人々です。約 54 万 7,000 人おり、台湾の総人口の約 2 %を占めています。各部族はそれぞれの文化、言語、風俗習慣、社会構成を持っています。現在、本委員会が認定している部族は以下の 16 部族です。

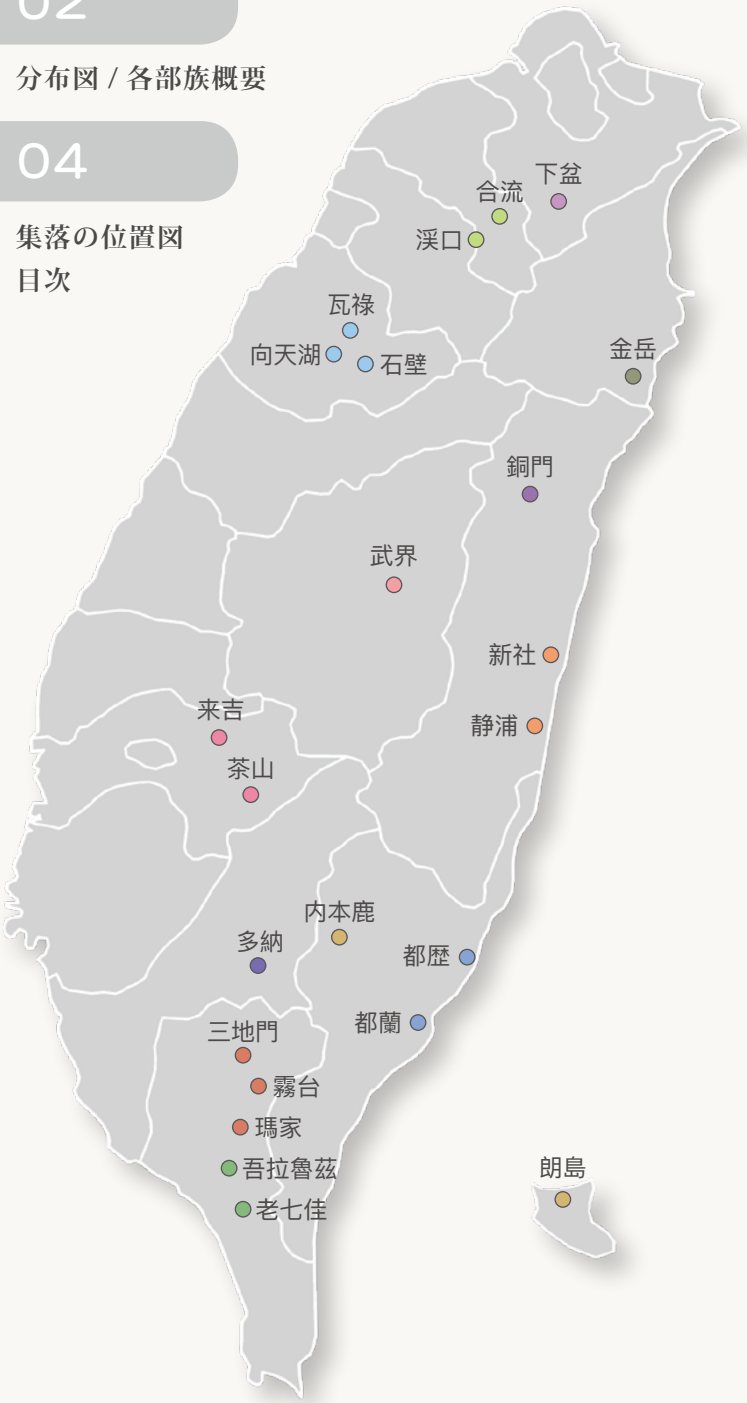


- アミ族 — 中央山脈の東側、花蓮県の立霧溪より南、太平洋沿岸の東台縦谷（花東縦谷）および東海岸の平原に分布。大部分が平地で暮らすが、ごく少数が山地に居住する。現在、人口は約 20 万 3,500 人。
- タイヤル族 — 台湾中・北部の山地に分布。埔里から花蓮を結ぶルートから北の地域など。現在、人口は約 8 万 7,000 人。
- パイワン族 — 台湾南部の屏東県と台東県に分布。活動区域は、北は大武山から南は恆春まで、西は隘寮から東は太麻里の南海岸まで広がる。現在、人口は約 9 万 7,700 人。
- ブヌン族 — 中央山脈の海抜 1,000 ～ 2,000 メートルの山地に分布。主に南投県に居住し、高雄市の那瑪夏区、台東県の海端郷にも居住する。現在、人口は約 5 万 6,800 人。
- プユマ族 — 台東縦谷（花東縦谷）南部に分布。現在、人口は約 1 万 3,600 人。
- ルカイ族 — 高雄市茂林区、屏東県霧谷郷、台東県卑南郷東興村などに分布。現在、人口は約 1 万 3,000 人。
- ツォウ族 — 主に嘉義県阿里山郷、南投県信義郷で暮らす。現在、人口は約 6,700 人。
- サイシャット族 — 新竹県、苗栗県の境界の山地に分布し、さらに南サイシャットと北サイシャットに分かれる。北サイシャットは新竹県五峰郷、南サイシャットは苗栗県南庄郷と獅潭郷に暮らす。現在、人口は約 6,500 人。
- タオ族 — 台東県の離島・蘭嶼の 6 つの村落に暮らす、台湾唯一の海洋民族。現在、人口は約 4,500 人。
- サオ族 — 南投県魚池郷と水里郷に分布し、大部分が日月潭湖畔の日月村に暮らす。かつて頭社地区に暮らしていた一部のサオ族は水里郷頂崁村大平林に居住する。現在、人口は約 770 人。
- クバラン族 — かつては宜蘭で暮らしていたが、現在は花蓮と台東に移り住んでいる。現在、人口は約 1,400 人。
- タロコ族 — 北は花蓮県の和平溪、南は紅葉村と太平溪の広大な山麓地帯に分布。行政区画は花蓮県秀林郷、万栄郷、卓溪郷の立山と崙山など。現在、人口は約 3 万 300 人。
- サキザヤ族 — 主に台湾東部に分布し、大部分が現在の花蓮県に居住する。現在、人口は約 870 人。
- セデック族 — 現在の南投県仁愛郷春陽温泉一帯にあたる徳鹿湾（Truwan）が発祥地。台湾中部および東部が主な活動範囲で、北にはタイヤル族、南にはブヌン族が暮らす。現在、人口は約 9,400 人。
- サアロア族 — 高雄市桃源区高中里、桃源里および那瑪夏區区瑪雅里に分布。現在、人口は約 290 人。
- カナカナブ族 — 高雄市那瑪夏区楠梓仙溪の流域両側に分布。大部分が達卡努瓦里と瑪雅里に暮らす。現在、人口は約 260 人。

台湾先住民－集落の位置図／目次

02
分布図 / 各部族概要

04
集落の位置図
目次



集落		ページ
烏来めぐり	下盆	06
北横めぐり	渓口、合流	10
台３線めぐり	石壁、瓦祿 向天湖	16
日月潭めぐり	武界	22
阿里山めぐり	来吉、茶山	26
茂林めぐり	多納	32
文化園区めぐり	霧台、瑪家 三地門	38
墾丁めぐり	吾拉魯茲 老七佳	44
東海岸南部めぐり	都蘭、都歷	50
台東山海めぐり	内本鹿 朗島	56
花東縦谷めぐり	銅門	62
東海岸北めぐり	静浦、新社	66
蘇花めぐり	金岳	72

伝統祭儀と開催時期一覧 78

訪問する際の注意点 80

下盆

台湾のアマゾン川で狩人になろう

温泉の町・烏来から南勢渓を遡った小さな下盆集落には、
少女の恥じらいと狩人の豪快さがある。
ここでタイヤル族は土地を守り、先祖の言葉を語り、
狩猟文化を受け継いできた。
半日あれば見終ることができる集落だが、
アマゾンのような神秘と荒々しさがある。

烏来

地図

下盆集落

山は集落の貯蔵庫

台北から車で約１時間の距離にある温泉の町・烏来は、タイヤル族の文化に触れられる最初の場所です。タイヤル人の山と川にかこまれた伝統的な生活を体験するには、川を溯って下盆集落を訪れてください。

台風によって小さくなった集落

かつて下盆集落は有名な「福山植物園」の一帯にありました。1962 年、集落は台風によって破壊されたため現在の場所へ移転し、集落のあった広大な土地には政府によって植物園が作られました。移転後、集落の生活範囲は小さくなり、半日もあれば見終ることができますが、タイヤル族の人々は今も自然の中で先祖の知恵を活かして暮らしています。

南勢渓沿いに生きる原始の森

下盆集落のすぐ隣を「台湾のアマゾン川」と呼ばれる南勢渓が流れています。南勢渓の流域には台湾の低海抜地帯に分布する広葉樹の原始林が残されていて、清らかな水が新店渓へ流れ込み、大台北地区に暮らす一千万の人々の生活用水となっていま

火を起こして調理

わなを仕掛ける

弓矢で射的体験

す。清朝時代、山奥で伐採された巨木はこの川を下り、新店で木板に加工されて運搬されました。

山林でのレッスンは親子にぴったり

タイヤル族の人々は、南勢渓は狩猟に生きる彼らにとって宝箱だと言います。観光客は「下盆狩人学校」で生態についての解説を聞いたり、狩人と一緒に動物が歩いた道を辿ったり、弓矢の使い方や罠の作り方を学んだりすることができます。食事の時間は自分で薪を割って火を起こし、ご飯を炊かなくてはなりません。「大自然を尊重する」このレッスンは、親子連れにぴったりです。

アクセス

バスで：烏来区公所からコミュニティバスに乗車。毎日３本（05:50、13:00、17:30）。路線：堰堤（区公所）→烏来駐車場→環山部→瀑布→信賢集落→下盆集落→福炎商店→卡拉模基→大羅蘭。

集落の窓口

下盆狩人学校：
新北市烏来区福山里屯鹿 35 号　+886-926-124995（林勇華さん）

復興橋と羅浮橋

渓口、合流

鎌田弥彦と モーナ・ルダオの戦場

北横公路は日本統治時代、「角板山三星警備道」と呼ばれた。
映画『セデック・バレ』で日本軍の司令官、鎌田弥彦とセデック族のリーダー、モーナ・ルダオが戦った場所だ。
第二次世界大戦後、この道は拡張され、北部山岳地帯の重要な観光地を結んでいる。

北横公路に入って間もなく、河岸の段丘に渓口集落、その対岸に合流集落がある。
吊橋、石造りの教会、タイヤル族の料理。
戦いに別れを告げ、今は温かな優しさが人々を魅了する…

タイヤル族の刺青を描いた壁画

地図

溪口集落

河岸段丘の美

桃園市復興区には大漢溪の上流が山と谷を削ってできた台湾で最も美しい「角板山河岸段丘群」があります。溪口集落は大漢溪が大きく曲がったところに形成された三角形の台地「溪口台」にあり、タイヤル族の人々は「Rahaw（伸びた段丘）」と呼んでいます。河岸段丘は四層あり、上の二層は棚田で、下の二層は芝生が植えられています。第三層には小さな公園があり、地理の勉強にぴったりの場所となっています。

ほっそり優美な溪口吊橋

角板山にある思親亭から河岸段丘の溪口集落を望むことができます。角板山公園の石段を下りて、溪口吊橋を渡れば台地に到着します。溪口吊橋は長くほっそりとした優雅な吊橋で、40年以上の歴史があります。吊橋の中央に立てば谷間を流れる大漢溪の風景を楽しむことができ、遠くには石門ダムが見えます。近くの角板山風景区は一年中観光客で賑わっています。

大漢溪の上流

溪哥魚（コイ科の台湾固有種）のからあげ

集落の彫像

マーニャンマーミー！地元の味を楽しもう

もし集落で「マーニャンマーミー！」という声が聞こえたら、ぜひ立ち止まってください！
これはタイヤル族の人が「ご飯ですよ」と言っているのです。さまざまな山の幸、川で採れた魚やエビは全て大地からの恵みです。食だけで飽き足らなければ、小米（アワ）の酒やタイヤル族の菓子作りを体験することもできます。タイヤル族の味を思う存分楽しんでください。

アクセス

車で：北部第二高速道路の大渓インターチェンジで降り、台７線（北横公路）　を進んで復興区へ入る。羅浮橋を過ぎてまもなく、県道118（羅馬公路）から溪口集落へ。

バスで：大渓から桃園客運の復興行きに乗車し角板山か復興で下車、角板山公園から口吊橋へ。または桃園客運の「大渓 - 羅浮 - 高遶」路線に乗車し、溪口台で下車すぐ。

集落の窓口

復興区観光ガイド協会：
桃園市復興区羅浮里５隣 112-6 号　+886-3-3821389（林沛緹さん）

合流集落

吊橋と教会の美

渓口集落から少し上流へ行くと隣り合わせになった二つの橋があり、この先が合流集落です。タイヤル族のこの二つの集落を訪れるには、大小の吊橋を四、五本渡ります。鮮やかな緑色の渓流を飛び越えると、まるでおとぎの国へやってきたようです。

『セデック・バレ』の名シーンを体感

寄り添った復興橋と羅浮橋は、一つが新しく一つが古く、また一つが赤く一つが紫色で、二つの集落を行き来する時に必ず通る場所です。映画『セデック・バレ』で日本軍の司令官、鎌田弥彦とセデック族のリーダー、モーナ・ルダオが対峙したあのシーンを体感したいなら、さらに上流の義興吊橋へ行きましょう。この吊橋を渡れば羅浮集落と義興集落にも来たことになりますよ。

素朴で愛らしい石造りの教会

近くの集落にある「基国派古教会」はタイヤル族の集会所であり、重要な観光名所でもあります。集落の石材だけで作られた教会は特徴的な外観をしています。手の込んだステンドガラスや石柱の

合流集落の彫像

基国派古教会

小米園区（アワパーク）

回廊はありませんが、切り出した石を積み上げた外壁は素朴で、緑の草に囲まれた姿からは、外来の信仰がタイヤル族の集落でしっかりと根づいたことが分かります。

アクセス

車で：北部第二高速道路の大渓インターチェンジで降り、台７線（北横公路）を進んで復興区へ入る。台湾中油の復興ガソリンスタンドを過ぎてさらに４ｋｍ進むと合流集落。

バスで：桃園客運の「大渓 - 羅浮 - 高遶」路線に乗車し、合流で下車。

集落の窓口

復興区観光ガイド協会：
桃園市復興区羅浮里５隣 112-6 号　+886-3-3821389（林沛緹さん）

臀鈴

向天湖、瓦禄、石壁

台３線の神秘の色彩

アブラギリの花の白、干し柿の黄色、イチゴの赤…
台３線には季節ごとの色合いを楽しむ人々が訪れる。

しかし最も豊かな色彩は，曲がった道を先の山奥に隠されている。
二年に一度しか行われないサイシャット族の「矮霊祭」。
向天湖の湖畔では，赤が鮮やかな臀鈴にいつでも出会える。
石壁集落の草木染めで，自分だけの色を手に入れられる。

集落に行って，目にしたことのない台３線の色彩の
美を楽しもう。

地図

向天湖、瓦禄集落

矮霊祭とサイシャット族の踊り

台３線（台３号線）に入って遠くないところ、三湾から中港渓に沿って山の奥へと入って行くと、世間から離れて暮らす二つのサイシャット族の集落に到着します。

サイシャット族が暮らす向天湖

向天湖は、耕作をやめた水田に作られた人工の湖です。冬から春にかけて湖面には霧が立ち込め、神秘的な美しさを見せます。ここは客家人によって開墾された土地でしたが、日本統治時代に「隘勇線前進計画」が進められ、日本人と平地に住んでいた漢民族の人々が山地で暮らし始めたため、サイシャット族は山奥へ逃げなければなりませんでした。そこで日本政府はサイシャット族に向天湖周辺を居住区として与えました。向天湖はサイシャット族の安住の地となり、湖を取り囲んで暮らすようになったのです。

矮霊祭と臀鈴

「パスタアイ（矮霊祭）」はサイシャット族を代表する伝統的な祭りです。小規模の祭りは二年に一度、大祭は十年に一度行われます。サイシャット族の人々は歌と踊りで部族と肌の黒い小人たちの物語を語り継ぎ、部族の平和と豊作を祈ります。

サイシャット族の女性は「臀鈴」を体の後ろに掛けて踊り、鈴が動きに合わせて清らかな音を響かせます。これはサイシャット族の大きな特色です。向天湖の湖畔にある「集落市集」では臀鈴のキーホルダーや小米（アワ）の酒などお土産を買うことができます。

多様な人々が暮らす瓦禄集落

向天湖のもう一方には「瓦禄産業文化館」があります。ここは日本統治時代の「東河派出所」の建物を利用しており、この建物の後方が客家、サイシャット族、タイヤル族が暮らす瓦禄集落です。瓦禄産業文化館にはさまざまな工芸作品と古い写真が展示されており、サイシャット族、タイヤル族の工芸と文化を知る第一歩として最適の場所です。

瓦禄産業文化館

臀鈴のキーホルダー

サイシャット族のアワ酒

織物工芸

アクセス

車で：中山高速道路の頭份インターチェンジで降り、珊珠湖方面へ 124 県道を進み、台３線と合流したらそのまま台３線を走る。三湾郷を過ぎたところで左に進み 124 県道を走り、南庄橋まで行く。その先に東河吊橋、瓦禄産業文化館がある。

集落の窓口

瓦禄産業文化館：苗栗県南庄郷東河村５隣 78 号 +886-37-823050

石壁集落

手作りの草木染織

東河吊橋を過ぎると、切り立った岩壁が見えます。わずか 20 世帯のタイヤル族が暮らす石壁集落はもうすぐです。

美しい伝統の技の伝承

集落には壁にＶ字が描かれた「石壁染織工房」があります。このＶ字のデザインはタイヤル族の女性が顔に彫る刺青の模様です。台北から石壁のタイヤル族に嫁いだ女性が、タイヤル族の染織技術を伝承し、部族の人々と観光客にタイヤル族の伝統を知ってもらうためにこの工房を始めました。敷地内には染織に使う植物がたくさん植えられています。カラムシ（布の原料となる植物）の採取から、繊維の取り出し、染色、布織りまで、全てが自然の材料を使った手作業です。観光客は工房で布織りや草木染め体験が できき、自分だけの布を手作りすることができます。

父子が歌う神仙谷

大東河をさらに上流へ行くと、美しい秘境の神仙谷へ到着します。ここで映画『セデック・バレ』でモーナ・ルダオが亡き父の霊と共に歌うシーンが撮影されました。近くには比林渓大瀑布、石門峡谷、蘿拉峡谷などの観光スポットがあります。２～３月は桃と桜が開花し、夏にはユリとハナシュクシャが楽しめます。10 月からは柿の季節で、先住民の料理と柿狩りが楽しめます。

伝統的なタイヤル族の織物

染織体験は海外の観光客に人気

神仙谷

木の皮を食べる人

日本統治時代、勇敢に戦ったタイヤル族の戦士たちがいました。日本人に降伏したくなかった彼らは新竹県五峰から苗栗の山地へ移動し、密林の中に隠れて木の皮を食べて生き延び、そのため「木の皮を食べる人」と呼ばれました。石壁集落の人々は彼らの末裔なのです。

アクセス

車で：中山高速道路の頭份インターチェンジから 124 県道に降り、珊珠湖から台３線を南下。三湾中学校を過ぎた後、左に進んで 124 県道へ入る。南庄大橋を左に曲がり、苗 21 線を東河村に向かって約８キロメートル、大東河沿いに約 10 分進む。左に大きく曲がる小道があるのでそこに入る。

バスで：「台湾好行」バスの南庄ラインに乗車。台湾鉄道竹南駅→苗栗客運（頭份バスターミナル）→頭份後花園→三湾→獅頭山古道口→龍門口→桂竹林→南庄中学校→南庄老街→南庄客運（南庄観光センター）

集落の窓口 石壁染織工房：苗栗県南庄郷東河村 21 隣石壁 21 号
+886-9-37-821777（林淑莉さん）

武界ダム

武界
日月潭のルーツを訪ねる

日月潭は台湾きっての名勝地。
観光としてはサオ族の伝統の舞「杵臼舞」が有名だ。
ただ、伝統的には付近のほとんどがブヌン族が暮らす地域である。
日月潭の北側、そう遠くはないところに
ブヌン族の武界集落はたたずみ
石坂の暦に暮らしのできごとが刻まれてゆく。

日月潭

地図

濁水溪の河畔にある武界集落

ブヌン族 石板の暦

武界集落
日月潭のルーツ

武界集落は日月潭と山一つ越えたところながら、山を通るため距離は約 70 キロメートルと、遥かなる道のりで他の世界から分け隔てられ、伝統文化を完全な形で保全しています。卓社トンネルが開通してからは、水社ふとうから出て中央山脈の支峰を越えればすぐです。

地下から水が湧き出る、日月潭のルーツ

「武界」はブヌン語で「地下水が湧き出るところ」を意味する「Bogai」といいます。日本統治時代の 1917 年、数千人を動員してここに「武界ダム」が整備されました。ダムの完成により「武界導水トンネル」から水が出始め、隣り合う湖、日潭と月潭の水位が上がってつながり、それが現在の「日月潭」となりました。

石板の暦に暮らしのできごと刻む

武界集落にはよく、石の積み重ねや象嵌（ぞうがん）で描かれた図案がみられますが、これこそブヌン族に特徴的な文化、「画暦」です。主に農耕生活をしていたブヌンの人々は月の満ち欠けを観察して農作業や祭り、儀式のよりどころとしていました。このため石を重ねる形で一年のうち 1 月から 10 月までの暮らしの中の大事なできごとを記録していました。

狩猟の知恵

ブヌン族は狩りを得意としますが、毎年農作業が暇になる 10 月以降にしか狩りをしません。その時期は動物の繁殖期ではないため、妊娠した動物を傷付けるのを避けることもできます。ブヌン族の自然と共生するための知恵といえるでしょう。

狩場の戦い：

武界集落と曲氷集落は、タイヤル族とセデック族との境界にあり、3 つの部族はいつも狩場を巡って衝突していました。言い伝えによれば 19 世紀の初め、セデック族が境界を越えてブヌン族の 5 人を殺したということです。数年後にはブヌンの人々がセデック族巴蘭社の 100 人もの人をおびき寄せて殺害したため、巴蘭社の勢いはすっかりなくなってしまいました。のちに起きた「霧社事件」で、巴蘭社が殺戮に加わることを拒み、老人や女性、子供を守るのに協力しただけだったのも、これと関係があるかもしれません。

アクセス

車で：台 21 号線を魚池中学方向に北上、魚池街で曲がり県道 131 号線に入る。投 72 号線で右折（近隣に水廊仔バス停あり）、さらに投 71 号線の中正路で右折、武界方向 25 キロメートル地点で武界集落の目印が見える。

集落の窓口

紅嘴鳥工作室：南投県信義郷万豊村 52 号
+886-912-894-699（八度さん）

石に描かれたペインティング

来吉、茶山

阿里山再発見

1899 年、石田常平はツォウ族の頭目に導かれ、阿里山で広大なヒノキの原生林を発見した。
1906 年、小笠原富次郎は阿里山の樹齢千年を超える神木に驚愕した。

ここから台湾のヒノキ輸出と阿里山観光の道が開かれた。
阿里山の真の主，ツォウ族は，自然と共生する知恵を基に、聖なる山に芸術的魅力にあふれた集落を築き上げた。
時を超えて再び阿里山を訪れれば、来吉、茶山といった集落でさらなる驚きを目の当たりにすることだろう。

阿里山

地図

イノシシを活かした多彩なアートがいっぱいの集落

来吉集落
聖なる山の芸術村

近代における阿里山の開発には日本人が深く関わってきました。1899 年当時、嘉義弁務署員だった石田常平氏が山中に広大なヒノキの原生林を、翌年には技師、小笠原富次郎氏が樹齢千年を超える神木を発見。これをきっかけに阿里山では森林鉄道の建設、木材の伐採と相次いで開発が進められ、徐々に現在の姿へと変貌と遂げました。

しかし阿里山は古来、ツォウ族の領地であり、ツォウ族こそがこの山の主なのです。ここを訪れる際は必ずツォウ族の集落に足を運んでください。本当の阿里山の姿を目にすることができるでしょう。

イノシシを愛する集落

200 年以上前、ツォウ族の狩人がイノシシを追ううち、聖なる山、塔山のふもとに分け入り、この肥沃な地――来吉を発見し、移り住むことを決めたと言い伝えられています。そのため、イノシシは来吉の人々にとって幸運をもたらす動物とされ、集落にはさまざまな素材を用いて作られたイノシシの芸術作品があふれています。

集落には自身のスタイルを確立したアーティストが多数

来吉人は天性の芸術家

来吉を訪れたら、塔山を仰ぎ見るもよし、「タイタニック号」の舳先（へさき）を思わせる岩壁に登ってみるもよし。しかし、芸術家たちのアトリエに立ち寄ることも忘れないでください。神の花と呼ばれる「山芙蓉」（台湾ハイビスカス）の樹皮で編んだバッグ、ワイルドなフクロウの木彫、絵画、革の上着や帽子など、作家一人一人が独自の見事な作品を生み出しています。

災いを鎮める村の秘宝

来吉集落の入り口、県道 149 号・甲線脇には男性器をかたどった巨大な木の彫像が山頂を指して立てられています。ツォウ族の伝説によると、集落をたびたび襲う豪雨や土石流はすべて、塔山の「そうじ」をするために起きるとされるため、男性の象徴を山に向かって立てることで、山の女神におとなしくしてもらおうという意図があるそうです。

災いを鎮める来吉の宝

アクセス

車で：中山高速公路を嘉義インターチェンジで下り、県道 159 号を嘉義市まで進んだ後、阿里山公路（省道 18 号）に乗って山へ向かう。石棹（省道 18 号・49 キロ地点辺り）で県道 169 号に、さらに奮起湖を過ぎたたところで県道・嘉 155 号に入り直進すれば到着。

集落の窓口

来吉社区発展協会：
嘉義県阿里山郷来吉村 1 隣 32-1 号　+886-5-2661002

茶山集落

自然と「涼亭」の美

曽文渓源流部に位置し、自然豊かな風景と巨大な岩壁で知られる茶山（Cayama）集落は、その名に反して茶畑は多くありません。聞くところによると、かつて、「苦茶樹」（ツバキ属の植物、天然食用油の原料となる）を多く栽培していたことからその名が付けられたとされます。

台風被害乗り越え農業で復興

2009 年、台風８号（アジア名・モーラコット）の襲来により台湾全土が災害に見舞われた際、茶山集落も甚大な被害を受けました。しかし集落の住民たちは「自分たちの土地にとどまり、再び立ち上がる」と決意。共同での農業経営により村の再興を図りました。そして茶山は今、自然の美しい風景だけでなく、もち米、もち粟、はと麦などの雑穀、ショウガ、苦茶樹（ユチャ）、マチクなどの産地としても知られるようになっています。

ここだけの「涼亭」文化

茶山集落には他のツォウ族の集落で見られる、男性のみが入ることを許される重要な集会施設「庫巴（kuba）」がありません。

しかし、村内のあちこちに住民がおしゃべりをしたり、山で取れた獲物を一緒に食べたりする独自のあずまや風施設「涼亭（hufu）」が設けられています。涼亭の形やその入り口に置かれる木の彫刻板は家族ごとに異なり、それぞれが特色ある趣を備えています。なお涼亭の中には通常、たくさんのバナナや木製の風鈴が吊るされているそうです。また毎年 11 月になると集落では、その独自文化を外部に紹介するイベント「涼亭節」が開催されています。

昼は大パノラマ、夜は自然の生態を堪能

集落内で最も高い位置にある「夕陽亭」からは、村の全貌が見渡せます。また茶山には 15 種類のカエル、７種類のホタルが生息しており、夜になるとカエルの声を聞きながらホタルの舞を鑑賞し、生き生きとした自然の姿を堪能することができます。このほか「水火同源」と呼ばれる水面に火が立ち上る現象が見られる地下沼気湧泉区も集落からほど近い場所にあります。

集落のあちこちで目にすることができる涼亭

アクセス

開車で：中山高速公路を嘉義インターチェンジで下り、県道 159 号を嘉義市まで進んだ後、阿里山公路（省道 18 号）に乗り、山へ向かう。龍美（省道 18 号・36 キロ地点）で右折し、茶山集落へ。所要時間約 1 時間半。

集落の窓口

茶山社区発展協会：
嘉義県阿里山郷茶山村 4 隣 77 号　+886-5-2513321

石板家屋

多納

百歩蛇とタカに守られたふるさと

百年前、ルカイ族はここで日本軍と戦った。
ルカイの戦士は百歩蛇とクマタカの加護を受け、勇敢に戦いふるさとを守った。
百年の時を経て、私たちは敵同士から友人となった。

多納集落では石板家屋、温泉、チョウ、コーヒーがあなたを待ち、タカが天地の境を飛び、この土地の一人ひとりを守っている。

ルリマダラ

地図

多納集落
石板家屋の美

茂林で温泉を楽しみ、梅の花や移動するルリマダラを鑑賞するのは、冬の南台湾で最も魅力的な観光コースです。茂林国家風景区の「紫蝶幽谷」を通り抜け、山の中へ向けて車で 30 分行くと、多納集落に到着します。ここには数百年の歴史を持つルカイ族の美しい集落と文化が保存されており、まるでタイムスリップしたかのようです。

呼吸する石板家屋

「石板家屋」はルカイ族の伝統的な建築で、今も集落のあちこちで見ることができます。冬暖かく夏涼しい石板家屋は、地元で採れる黒や灰色の粘板岩を利用して建てられます。ルカイ族の人々は石材を硬さと大きさによって使い分け、家屋の柱、壁、床を作ります。その建築技術は見事で、巧みに積み重ねられた石は、土で覆って固める必要がありません。このため石板家屋は通気がよく、家の中でご飯を作ると家全体から煙と美味しそうな香りが立ち上ります。

百歩蛇の木彫り

アワはルカイ族の伝統儀式で重要な役割を果たしています

イノシシの石板焼き

ルカイ族頭目の頭飾り

石板家屋は住む人によって特色があり、特別な装飾のルールを守らなければなりません。頭目の石板家屋の入り口にはアワを掛け、梁には人の顔と百歩蛇（ヒャッポダ、パイワン族が神聖視する大蛇）を彫りますが、これはこの家の主人が頭目か貴族であることを象徴しています。

人頭塚

遺跡に残る「祭人頭」文化

かつて先住民の各部族は土地と狩場のためにたびたび戦い、敵の首を取って祭る「祭人頭」文化を生み出しました。多納集落には「祭人頭場」の遺跡が完全な形で保存されています。集落の戦士は戦いに負けた侵入者の頭を切り落とし、呪術師による儀式を経た後、集落の高台にある「祭人頭台」へ置きました。祭人頭場の中央には「人頭塚」があり、侵入者たちの骨が積み重ねられました。木彫りの戦士が石造りの人頭塚を取り囲み、まるで侵入者を見張り続けているようです。

祭人頭台

ユリはルカイ族の花。百歩蛇、タカ、ウンピョウも大切な存在です

「勇者が叫ぶ塔」で多納コーヒーを

遺跡から遠くないところに、五層の緑色に塗られた「勇者が叫ぶ塔」があります。ルカイ族の人々は狩りに出て獲物を捕らえた後ここに登り、集落全体に向かって狩猟の成果を叫び、自分が勇敢な狩人であることを証明しました。地元で育てられた多納コーヒーをお忘れなきよう一杯お召し上がりください。独特のフルーティーな酸味とまろやかさがある、忘れられない味です。

多納橋にあるタカと壺のオブジェ

アクセス

車で：茂林国家風景区の入り口まで行き、高 132 線を上って茂林、万山を通過すると多納集落に到着。

バスで：屏東客運バスターミナル（台湾鉄道屏東駅そば）、高雄客運バスターミナル（台湾鉄道高雄駅そば）から多納行きバスに乗車。詳しくは各バス会社へ。

集落の窓口

納美下三社文化促進協会　+886-989-156496（羅蘇小萍さん）

文化園区

霧台、瑪佳、三地門

世代を超えて伝統文化を守る

明治の終わりごろ、日本の警察は霧台に駐在所を設置した。
「霧台事件」発生後、ルカイ族とパイワン族は、
それぞれの集落に独自の文化と伝統を築いた。

霧台では教会を通じて団結力と郷土愛を伝え、
瑪家と三地では文化園区と工芸の道を通じて
集落の歴史を伝える。

台湾先住民の文化園区

地図

霧台キリスト長老教会

霧台芸術街

岩板巷

霧台集落

ユリと百歩蛇のふるさと

「石板家屋のふるさと」と称される霧台集落は、年間を通した平均気温が 17 ～ 18 度と、夏でも過ごしやすい気候に恵まれています。また集落に入るときに必ず通る「谷川大橋」は、台湾で最も高い位置に架かる道路橋で、その壮観さに目を奪われることでしょう。

集落の歴史が刻まれた「岩板巷」

集落へ入ってまず最初にルカイ文化を感じる場所が「岩板巷」です。百歩蛇が進んだとされるルートに石板を敷き詰めた道の脇に道しるべとなる陶器の壺が並びます。また沿道には集落にまつわる物語をモチーフにした彫刻作品が数多く設置されていて、ルカイ族の人々の日常生活をうかがい知ることができるほか、芸術作品としても十分に目を楽しませてくれます。

ルカイ族文物館

ルカイ族の文化財を集めた文物館の館内では集落の信仰に関する紹介や工芸品の展示が行われています。また文物館の建物自体も伝統的な石板建築技術と現在の工法を組み合わせて作られたもので、欄干には伝統舞踊をテーマとするデザインが施され、ルカイ文化の雰囲気を色濃く感じさせます。

霧台キリスト長老教会

ルカイ族と西洋の特色が融合した霧台キリスト長老教会は、地元の芸術家である杜巴男氏が設計、集落の住人が交代で作業し、３年がかりで完成させました。その壮麗な姿は先住民たちの団結力と郷土愛を伝えています。

男だけが座れる椅子

「杜巴男紀念館」は霧台集落に存在する彫刻作品の多くを制作した地元の芸術家、杜巴男氏を紀念して開設された施設です。なお紀念館の外にある作品「祖霊座」は男性のみ座ることが許される椅子で、女性は絶対に座ることはできません。掟を破った場合、狩猟用の刀や槍が役に立たなくなり、獲物がまったく取れなくなってしまうそうです。

アクセス

車で：屏東市から省道・台 24 号線で約 44 キロメートル。三徳検査所、谷川集落、神山集落を経て約 30 分で到着。

集落の窓口

霧台社区発展協会：
屏東県霧台郷霧台村神山巷 73 号　+886-919503147

台湾先住民の文化園区

瑪家、三地門集落

パイワンの華やかな祝福

隘寮渓を境として南に位置する瑪家郷、北に位置する三地門郷はいずれも、パイワン族が古来、テリトリーとしてきたエリアです。美しい自然に囲まれた瑪家には「台湾原住民族文化園区」が設置され、平地と山地が交わる丘陵地に位置する三地門は「パイワン三宝」と称される、陶器の壺、トンボ玉、青銅刀といった特色ある工芸品を生み出す集落として知られます。

台湾原住民族文化園区

台湾原住民族（先住民族）文化園区は三地門、瑪家、霧台の境界に位置する、敷地面積 82 ヘクタールの国内最大規模の野外博物館です。園内の塔瑪路湾エリアと富谷湾エリアには先住民の伝統建築が展示され、一つの集落がまるごと再現されています。娜麓湾エリアはパフォーマンスが中心で、360 度の円形シアターや各先住民族の人形を使った生活様式の展示施設が設けられています。

三地門の工芸の道

三地門の工芸歩道（工芸の道）は住民総出で作り上げた歩道で、集落の老人と子供が一緒に製作した 1212 枚の陶器の板が敷き詰められており、道に沿って進むと、集落内の工房を一巡りできるようになています。ここを訪れる旅行者はアーティストの版画を鑑賞した後、トンボ玉作りを体験することもできます。アートを楽しんだ後は、地元の本格的な先住民グルメを味わってください。

三地門工芸村

アーティストのアトリエ

アクセス、集落の窓口

【瑪家】

車で：屏東市から省道・台 24 線を進み、水門を経て北葉方面へ直進すれば文化園区に到着。

バスで：台鉄・屏東駅で路線バス、屏東客運の三地門（文化園区）行きに乗り、文化園区のバス停で下車。

原住民族文化発展中心：
屏東県瑪家郷北葉村風景 104 号　+886-8-7991219

【三地門】

車で：屏東市から省道・台 24 線を三地門まで直進。

バスで：台鉄・屏東駅で路線バス、屏東客運の三地門方面行きに乗り、三地門郷公所のバス停で下車。

大社社区発展協会：
屏東県三地門郷和平路二段 35 号　+886-8-7997352

老七佳の石板家屋の集落

吾拉魯茲、老七佳
コーヒーと石板家屋に出会う

80 年前、地質学者の早坂一郎が恒春半島から大武山一帯までの土地に国立公園を設立することを提言した。
80 年後、墾丁へ続く県道 185 号線には台湾先住民の魅力があふれる。
パイワン族の集落でコーヒーを飲み、石板家屋を訪れ、ここならではの黒の美しさに出会おう。

鵝鑾鼻灯台

地図

コーヒー豆を摘み取る集落の女性たち

吾拉魯滋集落

台湾コーヒーの故郷

「吾拉魯滋」はパイワン語で「４つの小さな集落からなる大集落」という意味で、吾拉魯滋集落は屏東県の中で最も海抜が高いところに位置するパイワン族の集落です。太陽が豊かにふりそそぐ熱帯地方では雨季が８月に集中し、年間降水量は平均4,300 ミリメートルというこの集落は、コーヒー栽培に適しています。

日本統治時代に始まったコーヒー栽培

日本統治時代、日本の農業技師が大武山近くのこの集落でアラビカ種のコーヒーとマラリア治療薬のキニーネを作るアカキナノキを栽培し始めました。戦後、日本人が去ってしまうと、パイワン族の人々はコーヒーの用途も製法も知らなかったため、コーヒーの木は数十年にわたって忘れ去られていました。ここ数年、台湾産コーヒーに注目が集まるようになり、集落でも栽培が復活しました。

吾拉魯茲集落入口のシンボル

沿山公路

コーヒーと結び付く集落の文化

吾拉魯滋集落は現在、台湾最大で最も本格的な有機コーヒーの生産地です。一粒一粒手で摘み取られるコーヒー豆は完熟し、鮮やかな赤に染まっています。パイワン族の人々はコーヒーと地元の芸術と文化を心を込めて結びつけています。

近隣の名所も楽しもう

標高 3,090 メートルの北大武山は、手つかずの自然が残された、登りやすく安全な山です。山中には有名な神秘谷風景区、滝、渓流、密林が原始の様子を留めています。山の下のカトリック聖堂「万金聖母聖殿」は 1861 年に建設された台湾に現存する最古の教会です。

アクセス

車で：屏東市から台 24 線で三地門方面へ。内埔高級農工職業学校の手前を右に曲がって県道 185 号線（沿山公路）に入る。泰武小学校を過ぎた後、佳平巷（郷道屏 102-1 号線）を左に曲がる。さらに 1.2 キロメートル進むと到着。

集落の窓口

佳平社区発展協会：屏東県泰武郷佳平村 151 号　+886-8-7832435

老七佳集落

祖先の霊と出会う場所

パイワン族の老七佳集落は、台湾に現存する最大最古の石板家屋集落です。現在も 50 棟余りが完全に残されており、台湾の「世界遺産」候補のひとつです。「七佳」はパイワン語で「最も中間の位置」という意味で、集落は七佳渓と力里渓の間にあります。

独特な建築方法の石板家屋

集落にある石板家屋は、頭目の家であれ戦士の家であれ、廊下、階段、穀倉などを備え、全て石を積み上げて作られています。粘板岩はいずれも川で切ってから、一枚一枚運んで来たものです。400 年前からここで暮らすパイワン族の人々は、石の色で材質を見分けて家を建てました。石の色は濃ければ濃いほど硬いため、黄土色の石は壁や階段に使われます。この伝統的な工法によって石板家屋は水は漏れず、通気の良い作りになっています。

何でも包めば Cinavu に

地元を代表する料理は Cinavu です。パイワン族の人々はハナ

伝統食 Cinavu の手作り体験

シュクシャやゲットウの葉でアワとさまざまな肉を包み、冠婚葬祭の時に食べます。台湾でおなじみの粽（チマキ）に似ています。

伝統を受け継ぐ五年祭

少し北へ行くと、同じパイワン族の古楼集落があります。ここは「五年祭」で有名です。厳粛で神聖な祭儀が行われた後は、「刺福珠」という儀式が行われます。各家族の代表が長い竹竿を使って、最後の球を刺すことができた者が勇者中の勇者であると言われています。

「パイプが落ちれば牛が笑う」？

パイワン語には「Matjani a qungedjuyi, djemeli a gung（老人のパイプが落ちれば牛が笑う）」という言葉があります。古来からパイワン族の老人はタバコを吸うパイプをとても重視していました。もし持たずに外出しても決まった置き場所があり、決して床に落ちることなどありません。そして牛も喜怒哀楽を表情に出すことはありません。もしこの二つの事が同時に起こったらそれは奇跡なので、この言葉は「起こるはずがない事」という意味なのです。

アクセス

車で：屏鵝公路の佳冬戦備跑道を枋寮の玉泉村方面へ進む。三級古跡の石頭営聖蹟亭を過ぎたら、帰崇村と力里村に沿って進み、南和村へ向かう。力里渓の川岸の小道を走って、約 1 時間で到着。

集落の窓口

老七佳石板家屋集落文化協会：
屏東県春日郷七佳村自強一路 119 号　+886-932-977762（郭東雄さん）

都蘭、都歴
太平洋に浮かぶ月

「台東富士」の名で呼ばれる都蘭山から
海岸山脈を北へ太平洋沿岸をゆっくりとめぐる。
ここには台湾先住民で最大の人口を持つアミ族が暮らす。

昼は都蘭の旧製糖工場に芸術家を訪ね、都歴で月桃織にふれ
夜は都蘭山へ戻り、太平洋に昇る月を待つ…。

豊年祭

地図

都蘭集落
アミ族発祥の地

都蘭は東海岸南部最大の先住民集落です。地名の語源となるのはアミ族の言葉「'Atolan」で、当時、南からのブヌン族の侵入を防いだ「石を積み上げた壁」を意味します。

豊年祭は一家だんらんの季節

毎年６～８月に行われる「豊年祭」はアミ族にとって最も重要な祭儀で各集落で儀式がとり行われます。かつて集落内には仕事がなく、若者の多くが生活のため外地へ出て行きましたが、粟（アワ）の収穫期に行われるこのお祭りには皆が帰省して参加。一家だんらんの機会となりました。

水が逆流する用水路

「水往上流」は海に面した小高い丘の上にある用水路で、自然の理に反して水が高い方へ向かって流れる奇景を目にすることができます。なぜそんな怪現象が起きるのか、興味を持った方はぜひ現地を訪れてその目で確かめてください。

あちこちに美しいペインティングが見られる

生まれ変わった旧製糖工場

日本統治時代、「新東製糖工場」と呼ばれていた都蘭の旧製糖工場は、第二次世界大戦時、連合国による空襲に遭いましたが、木造の工場棟、宿舎、事務所は現在も完全な形で残っています。ここは多くの芸術家たちが作品の展示スペースなどとして利用するようになっており、流木や鉄を用いて創作を行う著名なアーティストも輩出。台湾東海岸における文化の集積地として知られています。

旧製糖工場のアート作品

アクセス

車で：花蓮市から省道・台 11 線で東河橋、金樽を経て都蘭まで 146 キロ。

バスで：台鉄・花蓮駅から台東行きの路線バス、花蓮客運・海線に乗り、漁橋付近または都蘭バス停で下車。標示に従って進めば到着。

集落の窓口

都蘭社区発展協会：
台東県東河郷都蘭村都蘭 372 号　+886-89-531476

都歴集落

南国情緒と月桃織

都歴は長い歴史を持ち、人口の多いアミ族の集落です。村の中心にある伝統的な茅葺き家屋は周囲をヤシの木に囲まれ、南国情緒を色濃く漂わせています。

生活に浸透した月桃織

月桃（ゲットウ）は台湾の低山部でよく見かけるショウガ科の植物で、よく食べ物を包むために用いられますが、アミ族の人々はその茎の板状繊維を使ってござ、物入れ、手提げカゴなど精巧な手工芸品を編んで日常的に利用しています。近年ではデザインを洗練させることで、先住民の高級工芸品として広く人気を集めています。

砂浜探索・いかだ体験も

海に面した都歴集落には美しい砂浜があり、干潮時には豊かな海の生態を探索することができます。また村人と一緒にいかだに乗り、伝統的な漁法を体験するサービスも提供されています。

月桃織

月桃織のカバン

童話に出てくるような教会

集落北部に位置する「卡片教会」を訪れれば、まるで童話の世界に入りこんだよう。当地の教会は本来、木や竹の構造に茅葺き屋根という形態が一般的ですが、台風に襲われるとすぐ壊れてしまうため、アミ族の人々はクリスマスカードの図案を参考に小さな純白の欧州風教会を建造しました。このことから同教会は「卡片（カード）教会」と呼ばれるようになり、南国風情あふれる集落で異彩を放っています。

海の幸

アクセス

バスで：路線バス、鼎東客運・海線（路線番号：8101、8102、8103、8107、8119、8120、8125）、または花蓮客運 1127 番に乗り、都歴バス停で下車。

集落の窓口

都歴社区発展協会：
台東県成功鎮都歴路 63-1 号
+886-937-579624（呉篠帆さん）

タオ族伝統の舟「チヌリクラン」

内本鹿、朗島

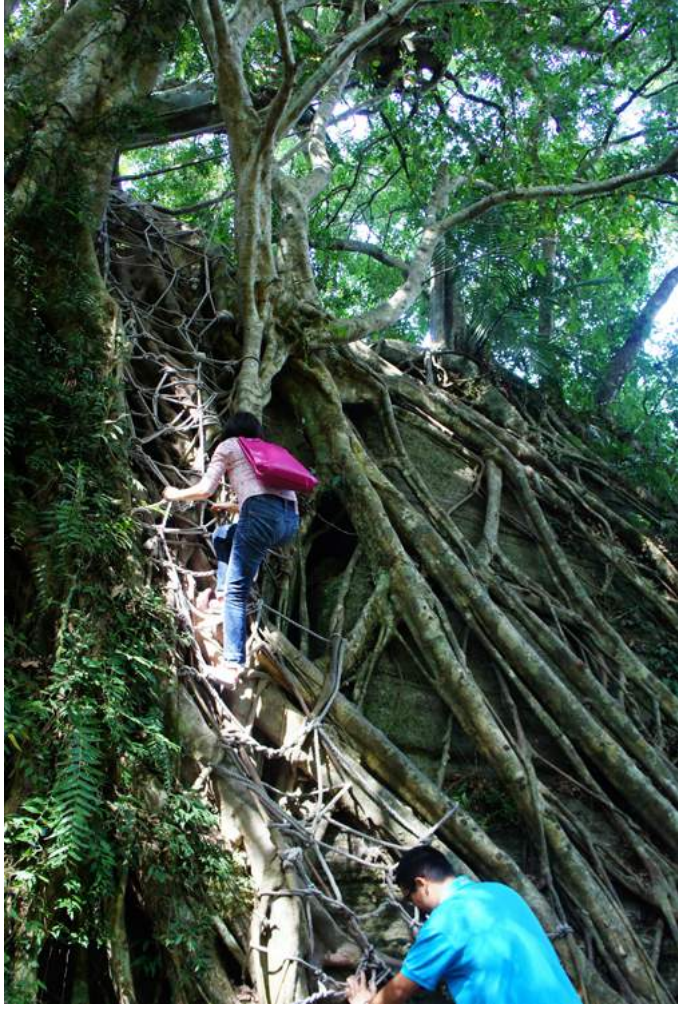
山と海の懐に抱かれる

山の息づかいを感じたければ 、内本鹿でブヌン族の狩人に会えばいい。
海の声に耳を傾けたければ、蘭嶼でタオ族の漁師を訪ねればいい。
山はブヌンの家、海はタオの畑
台東では山も海もすぐ目の前
他にはないその景色は一見の価値あり。

内本鹿

朗島

内本鹿



古木の根をつたい登ってゆく

内本鹿集落

水鹿やイノシシに出会う

ブヌン族は山での活動に長けた先住民として知られます。内本鹿を訪れ、その暮らしを体験してみましょう。

野生を味わい、自然のエネルギーを感じる

卑南渓をさかのぼったところに位置する「鸞山森林博物館」には巨大なガジュマルの原生林が存在します。ここで木登りを体験すれば、まさに大自然に抱かれる感覚が満喫できるでしょう。昼食は、流木を使ったテーブルの上でブヌン料理をいただき、自分でついたモチをデザートにすることもできます。食後は古道をちょっと散歩。ブヌン族の家屋や狩猟場の近くで水鹿（シカの一種、サンバー）やイノシシに出会えるかもしれません。

ブヌン文化園区へぶらり

近くの「ブヌン集落文化園区」では、集落での生活の様子やブヌン文化を学んだり、先住民の手による現代芸術作品を観賞することができます。園区内にはキャンプ場や織物工房、カフェもあり、ブヌン族の文化と伝統芸術にあふれた総合施設となっています。

狩りの腕を競う「射耳祭」

4 月に鹿鳴蝴蝶谷の祭祀広場を訪れれば、ブヌン族にとって最も重要なお祭り、獣の耳を射抜く「射耳祭」に参加することができます。これは村を挙げての一大イベントで、部族の男たちが伝統に従って祭儀を執り行った後、弓の腕を競います。

内本鹿事件

内本鹿はもともと鹿野渓と鹿寮渓の中流から上流にかけてのエリアに位置していました。しかし、日本統治時代に平野部へと強制移住させられたことで部族の間に不満が高まり、ついに 1941 年、ブヌン族の若者が日本人警察官を襲撃する「内本鹿事件」が起きました。近年、内本鹿集落の住民の中から山の上にあった本来の村に戻り、家を建てる者が出てきています。また当時、事件を起こした若者を逮捕した警察官の子孫が、かつて先祖が暮らした内本鹿を訪れ、ブヌン族の人々と和解をするという出来事もありました。

アクセス

車で：国道 5 号（蒋渭水高速公路）を蘇澳インターチェンジで下り、省道台 9 線（蘇花公路）へ乗り入れ、初鹿まで進んだ後、龍田を経て延平郷へ向かい、標示に従って進む。

クシー・レンタカーで：台鉄・鹿野駅で下車し、タクシーまたはレンタカーで約 15 分。

集落の窓口

布農部落文化園区：
台東県延平郷桃源村 11 隣・昇平路 191 号　+886-89-561211

航海に長けたタオ族

朗島集落

旅人のトビウオ日記

朗島は蘭嶼最大にして最も豊かな集落です。またタオ族の伝統文化が最も色濃く残されている場所でもあります。春から夏にかけてはカヌーを駆って海でトビウオ漁に出かけるタオ族の男たちの姿を目にすることができ、秋から冬にかけては羽を休める渡り鳥を眺めることができます。周囲の海は豊かな生態を誇り、ダイバーたちの天国となっています。

タオ族のトビウオ文化

タオ族の人々にとってトビウオは重要な食糧であり、その漁には祖先の知恵に従った厳しい時間的制約が設けられています。毎年２～３月にトビウオを招く儀式を行い、漁を開始するため、４～５月は新鮮なトビウオを食べるのに最適の時期となります。そして６～７月には漁を終え、９月以降は干物にしたトビウオだけを食べるようになります。

主食はタロイモ

集落の男たちが海へ漁に出かける一方で、女たちは畑でタロイモを育てます。このため蘭嶼の女たちはイモの出来不出来を自分の能力の高さを示すものと考えます。蘭嶼のタロイモは粘り気が強く、すりつぶして焼いた後、モチ状になったイモに上からラードをかけて食べるのが伝統的な食べ方です。

世界遺産級の住居「地下屋」

タオ族の伝統的な住居は中国語で「地下屋」と呼ばれる半地下式の家屋で、雨水などが溜まらないよう工夫を凝らした排水構造が設けられている上、日光も取り込める極めて独自性の高いものとなっており、世界文化遺産級の価値があるとされます。朗島集落には、母屋、仕事部屋、舟屋、あずまやから成るタオ族の地下屋が完全な形で保存されています。

トビウオの干物

チヌリクラン

「チヌリクラン」と呼ばれるカヌーに似た伝統的な舟は、タオ族の男にとって漁に使う道具というだけでなく、責任感と精神力の象徴とされます。一族に男の子が生まれると、家族はその子が成人した際に自分の舟を作るための木を植えます。タオ族にとって舟を作るという行為は非常に神聖なものとされ、その製作過程には数々の禁忌があるため、許可無く写真を撮ったり、手で触ることはできません。

アクセス

船で：台東県・富岡漁港～蘭嶼…緑島之星客輪：+886-89-280226、
屏東県・墾丁後壁湖漁港～蘭嶼…金星号客輪：+886-89-281477

飛行機で：台東空港～蘭嶼空港…
蘭色大門旅遊資訊網（時刻表・料金表あり）
http://travel.lanyu.info

集落の窓口

財団法人蘭嶼部落文化基金会：
台東県蘭嶼郷土椰油村 12-1 号 +886-89-731000

慕谷慕魚峡谷

銅門

木瓜渓に残る日本人移民の記憶

歴史的な結び付きから、台湾各地には日本人の足跡が刻まれているが、木瓜渓周辺ほどかつての面影が色濃く残る場所はない

当時、日本人の移民村として模範とされた吉安郷には、台湾開拓に賭けた日本人の精神の拠り所となった寺院、慶修院が残る

また銅門集落には高砂義勇隊としてはるか南方へ出征し、日本人とともに戦ったタロコ族の人々が暮らす

慶修院

地図

慶修院

銅門集落
高砂義勇隊のふるさと

台湾東部、花蓮県と台東県を縦断する中央山脈と海岸山脈に挟まれた「花東縦谷」には日本統治時代、多くの日本人移民が暮らしていました。中でも徳島県吉野川周辺からの移民が根を下ろした現在の花蓮県吉安郷は当時、「吉野庄」の名で呼ばれました。

その吉安郷のわきを流れる木瓜渓を源流に向かって 15 分ほど進み、仁寿橋を過ぎたところが「慕谷慕魚（Mqmgi）」の別名で知られる銅門集落です。

慕谷慕魚峡谷の絶景

曲がりくねった深い渓谷、エメラルドグリーンの清流、豊かな生態系――これぞ「慕谷慕魚」が誇る自然の風景です。なお「慕谷慕魚」とはそもそも地名ではなく、この地を初めて開墾したタロコ族の一族の名前だと伝えられています。

高砂義勇隊に加わったタロコ族

木瓜渓沿岸に日本人が設置した 4 基の発電所に付属する砂防ダムがある場所には、かつて神社が存在ありました。ここでは第 2 次世界大戦中に南方での作戦に従事した「高砂義勇隊」（台湾先住民により編成された部隊）に加わり、戦死したタロコ族の兵士をしのばれ、慰霊碑、「忠魂碑」が建立されました。また銅門集落のキリスト教会そばにある「銅門祠」には「造化三神」と北白川宮能久親王が祀られています。

タロコ族の山刀

タロコ族にとって山刀は生活に欠かせない道具です。道を切り拓いたり、自分の身を守ったり、食べ物を分けるなど「命をつなぐ」用途に使用されるだけでなく、結婚の際に必ず新郎側から新婦側の男兄弟に山刀が送られるというように「絆を結ぶ」ための儀式にも用いられます。銅門集落で最もよく知られるスポット「銅蘭鉄店」では 4 代目店主の Youdau さん自らが鍛えた山刀が販売されています。

移民の心を癒やした慶修院

吉安郷の「慶修院」は旧名を「真言宗吉野布教所」と言い、移住が盛んだった時期に川端満二氏によって開設されました。境内の建物や不動明王、百度石などが現在も保存されています。

銅門の山刀工芸品

慕谷慕魚瀑布

アクセス

車で：路線バス「花蓮客運」で銅門集落へ。「銅蘭鉄店」、「尚攸農園」、「銅門派出所」近くで停車する。織物工房「哈娜編織工作坊」へは「銅門大橋」で下車し、徒歩で約 20 分。

集落の窓口　旮日奕さん　+886-975-140500

新社水の田んぼ

静浦、新社

日光、水田、バナナの布

昭和５年、台 11 線の前身である「東海道」が完成した。
その海沿いの道の始まりは、静浦集落だった。
そこから北へ行へ行ったところに、新社集落はある。

静浦集落で美しい海と山と暮らすアミ族の奔放さ、新社集落でカバラン族の繊細なバナナの葉で織った布を楽しもう。水田から太平洋を望み、北回帰線で日光とかくれんぼ……。

長虹橋

地図

弓矢で射的体験

卜蘭ビジターセンター

奚卜蘭島

秀姑蘭渓の河口

静浦集落
太陽の集落

アミ族の静浦集落は秀姑巒渓が海へと注ぐ海岸にあります。河口付近に Pacidal（アミ語で「太陽」の意）という名前の大きな石があることから、静浦は「太陽の集落」と呼ばれています。

太陽が折り返す北回帰線

静浦集落はちょうど北回帰線の上にあり、ここは太陽が地球に対して垂直に照らす最北の地です。北回帰線の標誌は台 11 線を花蓮から 69 キロメートル走ったところにあり、毎年夏至には太陽がこの白い塔の上を東から昇り、西へ沈んでいきます。標誌には一本の細い隙間があり、夏至の正午に日光がまっすぐ差し込み、太陽の下なのに影ができない不思議な光景を見ることができます。

自然豊かなモズクガニの故郷

川と海が交わる場所にある静浦集落は、さまざまな生き物が観察できます。集落のそばを流れる巴拉峨巒渓は、台湾固有種のモズクガニのふるさとです。夏から秋にかけてカニの子どもたちが生まれ故郷へ向かって川を遡る姿を見ることができます。観光客は集落の渓護渓協会へ申し込めば、海辺で彼らの足跡をたどる活動に参加できます。近年は秀姑巒渓から海へ出るカヌーも人気があります。

伝統的な狩猟を体験

静浦集落はアミ族が生き生きと暮らす楽園と言えます。秀姑巒渓で竹のいかだを漕いで、長虹橋とそびえる山々の美しい風景を楽しみ、集落ではアミ族の狩猟文化を体験できます。伝統的な漁具「八卦網（投げ網）」は体を振って網を水面に広げて投げ、魚を捕らえる方法です。伝統的な弓矢に興味があれば、アミ族の人々が使い方を教えてくれます。

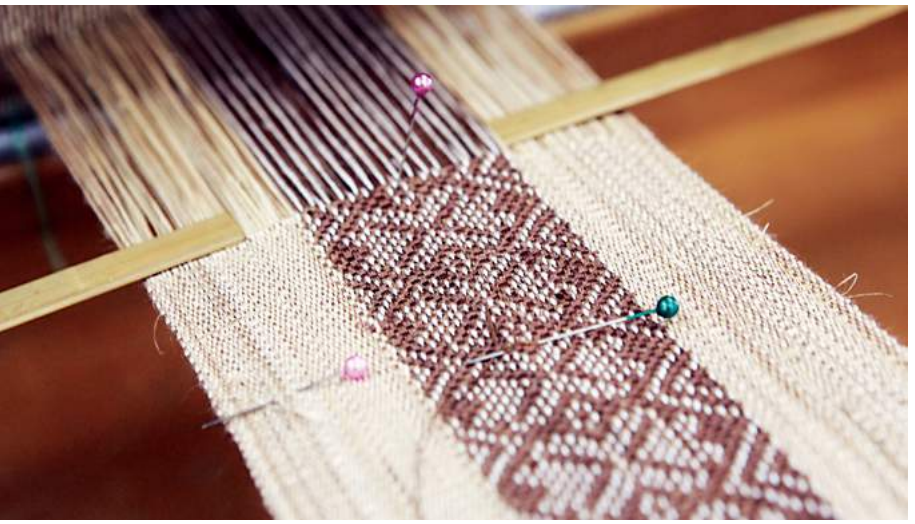
アクセス

車で：台 11 線を花蓮県豊浜郷へ向かって走り、静浦に着いたら新長虹橋を渡る手前で曲がって旧台 11 線を進んですぐ。

バスで：台湾鉄道花蓮駅から花蓮客運か鼎東客運を利用。台 11 線を成功、静浦、台東方面へ行くルートのバスに乗車して豊浜まで行き、静浦で下車。集落までは徒歩すぐ。

集落の窓口

静浦社区発展協会：
花蓮県豊浜郷静浦村 140 号　+886-3-878-1697



バナナ繊維の織物

新社集落

バナナ糸の道をたずねる

新社集落は現在、カバラン族の言語と文化が最も多く保存されている集落です。カバラン族はもともと宜蘭の蘭陽平原に住んでいました。200 年前、漢民族が蘭陽を開墾しはじめたため、カバラン族の人々は花蓮へと追われ、その後、花東縦谷を経て海岸へとたどり着いたのです。

海を望む棚田

カバラン族はこの地へやってきた後、海岸にある扇形の段丘を開墾して棚田を作りました。水田はある時は深い緑、ある時は黄金の稲穂がたなびき、四季折々の色を見せてくれます。水田の間から眺める海は、他では見ることができない光景です。この近くで出土した先史時代の巨石文化の石棺は、集落のカバラン文化展示センターで見学することができます。

バナナの繊維を使った工芸の美

カバラン族に伝わるバナナから作った糸を使用した織物は、台湾ならではの工芸です。製作工程は複雑で、まずバナナの木の内側にある柔らかい皮を削って薄くし、天日に干します。その後、それを 1 本 1 本割いて撚り、結んでから染めます。とても

かかし

多彩なバナナの糸

手間と時間がかかる作業です。集落へ来たらぜひ「バナナ繊維工房」を訪れてください。実際に体験し、バッグや名刺入れを作ったり、完成品を買うこともできます。

手作りで生み出す新たなアイデア

このほかカバラン族には地元の竹や藤を使った工芸品もあり、斬新な方法で集落の伝統を受け継いでいます。最もよく見られるのは竹や藤で漁具の形に編んだライトカバーで、環境に優しいだけでなく現代的な美も兼ね備えています。

マッカイ博士が植えたオオバアカテツ

カバラン族の人々はオオバアカテツが大好きです。どっしりと大きくて木陰が涼しく、果実が食用になり、樹皮からは染料を作ることができるからです。そのため集落のあちこちで見かけられ、カバラン族の象徴となっています。カバラン族の故郷・宜蘭には、台湾の医療と教育に大きく貢献した宣教師のジョージ・L・マッカイ博士が 1883 年にこの地を訪れた時に植えたと言われる樹齢約 180 年のオオバアカテツがあります。

アクセス

車で：台 11 線を花蓮から 43.5 キロメートル進むと新社部落に到着。

バス：花蓮客運か鼎東客運（海線）に乗車し、新社駅で下車。

集落の窓口 新社バナナ繊維工房：
花蓮県豊浜郷新社村小湖 42 号　+886-3-8711361

金岳瀑布

金岳
サヨンの歌が聞こえる村

太平洋の絶景を望み、切り立つ断崖の上を走る蘇花公路、かつて台湾先住民を支配しようと様々な国が切り拓いた道、そこは今、各国の旅行者が必ず通る観光ルートとなっている。

蘇花公路の起点に位置する金岳集落には、タイヤル族の少女と日本人教師の物語がモチーフとなった歌、「サヨンの鐘」を通じて台日友好の美しい思い出が受け継がれている。

蘇花公路

地図

ツリーハウス

金岳集落
サヨンのふるさと

南澳溪を臨む東側以外の三方を中央山脈に囲まれた金岳（旧名・鹿皮）集落は、先住民タイヤル族の人々が日本統治時代に山中に移り住んでできた村です。彼らが移住する時に通った道が、台湾北部と東部を結ぶ近道として清朝時代に切り拓かれた「比亜毫古道」です。

サヨンの物語

比亜毫古道の道中に架かる 1 本の吊り橋のたもとには、悲しくも美しいある言い伝えを記念して「昭和 5 年 7 月」と刻まれた石柱が立てられています。言い伝えによると 1938 年、当地に勤務していた日本人教師に召集令状が届き、出征することになった際、教師との別れを惜しむ教え子たちが荷物の運搬を手伝うことになったそうです。しかし教え子の 1 人でタイヤル族の少女、サヨンは増水した川を渡ろうとして足を滑らせて水中に転落。消息不明になったそうです。この話を聞いた当時の台湾総督府は少女をしのび、遭難現場付近に鐘を設置しました。

サヨンの鐘

この物語を基に作られた「サヨンの鐘」（西條八十作詞・古賀政男作曲）という歌は現在でも歌い継がれています。

タイヤル名物「アワ漬け肉」作りを体験

タイヤル族の名物料理として知られる「小米醃肉（アワ漬け肉）」はもともと、山で獲ったイノシシを食した後、余った肉を粟と一緒に漬け込んで保存したもので、来客があった時などに調理してふるまわれました。金岳集落ではそんな小米醃肉作りや餅つきをを体験することができます。

タイヤル名物「小米醃肉（アワ漬け肉）」

多種多彩な織物工芸

お土産を手作りで

草木染めや織物、弓矢作りなども体験できます。タイヤル族のおばあさんが織る布やおじいさんが編む竹細工はとても美しい工芸品ですが、簡単に作れるものではありません。まずは比較的簡単な、薯榔（ショロウ、ヤマイモ科の植物）を使った草木染を体験してみてはいかがでしょうか。薯榔の根と茎を細かく切って煮れば上品な褐色の染料となります。これで布を染め、お土産として持ち帰ることができます。

竹や籐で編んだ道具

タイヤル族の伝統家屋

展望台

民族衣装をまとった少年

森の香りに身を浸す

木や茅（かや）を使って建てられた伝統的な建築物も見応えがあります。金岳小学校そばに作られた「樹屋（ツリーハウス）」や展望台に登って涼を取ったり、伝統的な倉を見学したりするのはまたとない経験となるはずです。また鹿皮渓で沢登りを楽しみ、緑を湛える金岳瀑布の淵に飛び込んだり、豊かな森の香りに身を浸すのは都会人にとって最高のぜいたくと言えるでしょう。

アクセス

車で：省道台９線（蘇花公路）を南下し、南澳郷武塔村を過ぎて右折、金洋産業道路に入り、南澳南渓谷を右に見ながら西へ。そのまま宜蘭県郷道 57 号線（宜 57 線）に乗り、金洋村（金洋社区）を通過して直進（途中の分岐点では右側を進む）すると、旃檀駐在所跡地の登山口に到着する。

バスで：台湾鉄路（台鉄）南澳駅から南澳観光バスに乗車。金洋社区に到着後、南澳南渓に沿って徒歩で登山口まで約 5.5 キロ。

集落の窓口

金岳社区発展協会：
宜蘭県南澳郷金岳路 12 号　+886-3-9984313

台湾先住民の主な伝統祭儀と開催時期一覧

1月

- サアロア族 - 貝神祭

2月

- プユマ族 - 合同豊年祭
- ツォウ族 - 戦祭
- タオ族 - 招魚祭
- タオ族 - 飛魚祭

3月

- タオ族 - 招魚祭
- タオ族 - 飛魚祭

4月

- サイシャット族 - 播種祭
- サイシャット族 - 祈天祭
- サオ族 - 播種祭

5月

- ブヌン族 - 射耳祭
- サイシャット族 - 播種祖霊祭
- アミ族 - 捕魚祭
- タオ族 - 飛魚祭

6月

- タオ族 - アワ収穫祭

7月

- プユマ族 - 海祭
- アミ族 - 豊年祭
- ルカイ族 - アワ収穫祭
- クバラン族 - 海祭
- パイワン族 - 収穫祭

8月

- サオ族 - 拝鰻祭
- ツォウ族 - アワ収穫祭
- タイヤル族 - 祖靈祭
- タロコ族 - 祖靈祭

9月

- サオ族 - 換年祭

10月

- パイワン族 - 五年祭
- タロコ族 - 祖靈祭

11月

- サイシャット族 - 収穫祖霊祭
- サイシャット族 - 矮靈祭
- ルカイ族 - 黒米祭
- タイヤル族 - 祖靈祭

12月

- プユマ族 - 大猟祭
- プユマ族 - 除喪祭
- プユマ族 - 猿祭

注意：各先住民の伝統祭儀は年によって開催時期が異なる場合があります。訪問前に集落の窓口にお問い合わせください。

先住民集落を訪問する際の注意点

一、集落内の先住民家庭を訪問する際は、大前提として相手を尊重す る気持ちを持ってください。

二、集落を訪れる前にその集落がどのエスニックグループに属するかを知り、基本的な知識を学んでください。

三、集落を訪れる際は現地のあいさつを覚え、親しみと誠意を表してください。

四、伝統的な物品、設備、家屋はいずれも貴重な文化遺産です。触ったり、中へ入る際は先に了解を得てください。

五、特定の人や物、設備を写真撮影する場合は、タブー（禁忌）に触れないよう、先に了解を得てください。

六、言い伝えや歴史的な事件に対する安易な論評は差し控えてください。

七、どのエスニックグループにもタブーが存在します。特に祭儀の際は十分に配慮し、規定を厳守してください。

先住民ごとのタブー

アミ族	◆ 豊年祭で夜、男性が「迎霊舞（霊を招く舞）」の儀式を行う際、女性の参加は固く禁じられている。当日の夜は肉を食べてはならない。 ◆ 粟（アワ）の豊年祭の期間中は「米」と「入浴」という言葉を口にしてはならない。
パイワン族	◆ 「五年祭」の期間中は喫煙してはならない。妊婦は「刺球（長い竹竿で、祭司の放り上げる藤で編んだ球を突き刺す）」儀式の道具に近づいてはならない。 ◆ 祭儀の会場でくしゃみをしてはならない。くしゃみをした場合、祭儀は中止され、日を改めて実施せざるを得なくなる。 ◆ 収穫祭 3 日目に女性が祭壇の前を通過したり、祭儀に使用する葉を踏んではならない。
タオ族	◆ 飛魚祭の期間中、みだりに舟に乗ってはならず、女性が舟に触ったり、跨ぐこともしてはならない。 ◆ タオ族が忌避する植物「ゴバンノアシ（中国語名・棋盤脚）」の枝や葉を家の中に持ち込んだり、舟に置いてはならない。
サイシャット族	◆ 「矮霊祭（パスタアイ）」は矮人族の霊に対するざんげの意を表する祭儀であり、祝祭ではないため、厳粛な態度を保つこと。 ◆ 妊婦およびその配偶者が矮霊祭に参加したり、「送霊」の儀式を見物したりすることはできない。 ◆ 矮霊祭の間、人や道具などには儀礼で清められたススキの葉が結び付けられるが、祭の終了後は廃棄し、持ち帰らない。 ◆ 矮人族の霊が仮住まいする「霊屋」の撮影、接近は厳禁。
ブヌン族	◆ アワの収 穫祭会場では小声で話す。水を飲まない。くしゃみをしない。大声で「トイレに行く」と言わない。
ツォウ族	◆ 重要な高床式集会施設、「庫巴（kuba）」に勝手に上ってはならない。女性は緊急時を除き進入不可。
プユマ族	◆ 「海祭」の会場に女性が近づいてはならない。集落および女性自身に悪運がもたらされると考えられるため。
クバラン族	◆ 儀礼で清められたババナの木には多くのタブーが存在する。特にその上を跨ぐことは厳禁。